



平成十一年度総会のご案内

春たけなわの今日この頃、会員の皆様方がお過ごしでしょうか。今年もまた総会のご案内をさしあげる時期となりました。

左記により本年の総会を開催したいと存じます。今回は趣向を変えて日帰りバス旅行を企画しました。皆様お誘い合わせのうえご参加くださいませ。

記

期日 平成十一年五月十八日(火)

行先 ① お台場

② 横浜パークホテル

ニッコー(総会会場)

③ 元町

④ 海ほたる

周遊コース及び予定時刻
下表のとおり

集合時間 午前九時三十分

集合場所 新宿駅西口地上 安田生命ビル前

*近鉄バスガイドが旗を持って待っています。それを目標においでください。

会費 金一万円也(年度会費金壱千円を含む)

同封の振込用紙でお振り込み願います。

付記

- ◎ 会費の振込を出席通知に代えますので、出欠ハガキは同封いたしません。
- ◎ 総会にご欠席の方は、年度会費のみお送りください。
- ◎ ご出席の方は、五月十日までにお振り込みください。

※連絡先 電話ファックスとも 〇四五―九五二―一〇二〇 油井

横浜日帰りバス旅行

首都高速	
新宿西口	====新宿JCT====有明JCT====(お台場散策)====
	集合9:30
====有明JCT====	みなとみらいJCT=ロイヤルパークホテル ニッコー====
	11:30(昼食)~13:30
東京湾アクアライン	
====元町(散策)====	====石川町JCT====(パイブリッジ)====
	14:00~15:30
====(海ほたる 休憩)====	====新宿JCT====新宿西口(解散)
	17:00ころ 18:30ころ



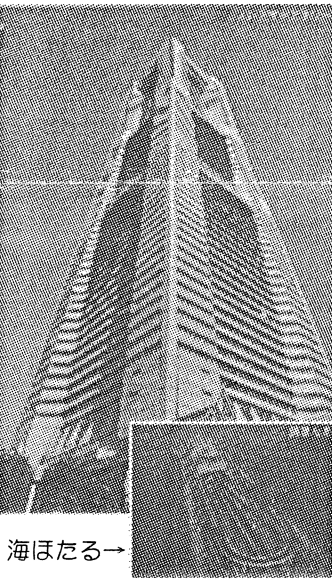
呼応

第14号

(発行)

上田染谷丘高校
東京同窓会事務局

〒241-0034
横浜市旭区今宿南町140
Tel&Fax:045-952-1020



海ほたる

ランドマークタワー

募金にご協力を

創立百周年募金委員長

川上貞子

陽射しが何となく春めいて寒い信州にも春がそこまできています。実感うれしい限りです。

東京支部の皆さま、お元気でそれぞれの道にご活躍のことと拝察いたします。

さて母校は来る二〇〇一年(平成13年)には創立百周年という輝かしい記念すべき年を迎えます。同窓会、PTA、学校が一体となって実行委員会を組織しそれぞれの分野で地道な活動が始まっております。

主な事業は同窓会館の建設と百年記念誌の刊行ですが、これには多額な資金が必要です。募金目標を『一億円』と決めてがんばっております。現在の募金額は二七二〇万円ほどです。三月末が第一回の募金締切となっておりますので、三月末までには、三千万円に達すると思っております。

平成10年度決算報告書

収入の部

項目	10年度決算額	備考
前年度繰越金	962,109	
年会費	499,060	支払手数料差引454名分
会費	175,000	25名分
総寄付	25,000	総会来賓よりのご祝儀
補助金	5,000	母校同窓会本部より
受取利息	6,943	
合計	1,673,112	

支出の部

項目	10年度決算額	備考
総会費	327,745	はあといん乃木坂
渉外費	36,025	連合会諸会合費
通信費	90,000	切手代
印刷費	15,750	会報13号
事務用品	19,610	封筒代他
会議費	50,805	会場費他
交通費	63,960	役員会交通費
小計	603,895	
次年度繰越金	1,069,217	現金・中国ファンド
合計	1,673,112	

同封サービス開始のお知らせ

皆様には大変なご協力をいただいているわけですが、「目標額一億円」ははるかかなたです。四月からは心新たに第二回の募金活動に入ります。この不況下、大変厳しい状況にあります。振込用紙等紛失されましてしまった方は、第二回目の募金用紙を五月に発送しますのでよろしくお願い致します。

母校では『一億円』の目標達成のために、第三回の募金活動として「足歩き」を計画しております。東京支部の皆さまにも、更なるお力を出していただけてますよう心からお願い申し上げます。

昨年、下水内郡栄村の絵手紙世界展、本年は中澤きみ子ヴァイオリニスタのチラシを同封してあります。発送時期の関係でご希望に添えない場合があるかも知れませんが、まずは情報をお寄せくださいますように。

人生における春夏秋冬

本41回卒

赤沼芳枝 (土屋)

◎春―学生期(かくしゅうぎ)
古き良き時代の小学生時代、良く学びよく遊び春夏秋冬それぞれの季節を思う存分楽しんだ。

昭和十三年あこがれの白線に夢をいだいて女学校に入學、勉學より読書に明け暮れた。後の人生を大いに豊かなものにしてくれた。

昭和十六年大東亜戦争勃發。スカートからモンペ、下駄ばぎとなり、農繁期には中学生(上田高校)と一緒に農家の稲刈り、いも掘りなど手伝った。

◎夏―家住期(かじゅうぎ)

昭和二十年八月十五日終戦。その年の十二月八日結婚。翌年婦人参政権を得た。

丁度二十歳になっており、初めて投票を果した。女性議員四十八名が誕生した。

家事・育児に専念

戦後全く一変した価値観の中、女性である前に先ず人間である。子供にエネルギーを使わない等新時代に向かつて最も向学心に燃えた時季であったように思う(今では当たり前のことなのに)。

◎秋―林住期(りんじゅうぎ)

昭和三十五年、下の子供が中学生になったのを機会に仕事を持った。営業から経営。人生で一番自分の持てる力を発揮できた。喜びも苦しみも百パーセントあったけれど、充実した年月であった(二十七年間)。

昭和六十二年 食道ガンのため辞職し翌年、翌々年と三年間に三回に及ぶガンの大手術という闘病生活に入る。二度目の入院中平成となった。

「総会」に出席して

高5回卒

山下由美子 (小林)

樹木のうっ蒼と生い茂る乃木神社。その近くにあるホテル「はあとといん乃木坂」が、東京同窓会の会場。昨年六月、私は初めて出席した。

卒業以来、故郷から離れていたこともあって、長い間、記憶から遠のいていた母校への郷愁が、そのときいつきに甦った。

上京された小野校長、中沢会長の挨拶では、母校の近況と、三年後に迎える学校創立百周年記念事業に、多くの同窓生の協力を呼びかけられた。会次第が進行するにつれ、学舎で過ごした多感な日々から四十五年の流れが夢

◎冬―遊行期(ゆうぎようぎ)

平成十年九月 墨彩画の個展を開く。「墨彩画小さな歩み展」である。戦中より半世紀有余の間の知人友人そして病後に携わった各部門、国際交流、歴史愛好会、絵画、書道、川柳のお仲間等百八十名におよぶ皆様において頂いた。

大病後に得た素晴らしい人生。正に「人間万事塞翁が馬」ということであろうか。「人脈こそ宝」と考えている私にとって最高の感動と喜び

のように感じられる。しばらくの間、洋食に舌つづみを打ちながら歓談する。

このように、世代を越えての同窓の集まりは、「精神(こころ)のふる里」である青春を語り合う場として、まことに絶好の機会。

戦争をはさんで、不安な青春時代を過ごされた本科卒業生。また、若々しい後輩との語らいを楽しく、男女共学制になって久しいことに改めて思いを馳せながら、ともに親交を暖めることができた。

会の中程に、中澤きみ子さんが名曲を演奏して下さいました。中澤さんは、母校二十一年の卒業生。世界的ヴァイオリニストとして、今や、ウィーンを拠点に広く海外で演奏活動をされておられる。

注 春―学生期 夏―家住期 秋―林住期 冬―遊行期 はヒンズー教の言葉



演奏後の自己紹介では、お父さまの大きなご支援があったことなど、力強い話をされた。四ヶ月後、カザルスホールで開かれた「ウィーン東京アンサンブル」公演にも出かけたが、再び素晴らしい演奏に魅了された。

母校百周年の伝統、それは、二十一世紀へ向けて世界的人材育成の礎となるもの。中澤さんのような人が多く輩出し、後輩に影響を与える存在となって欲しい。

楽しい一日となった。多くの方々の出席により、会はより一層豊かなものになると思う。今は亡き私の母も、上田高女の卒業生(大正八年卒)。母校のこれまでの沿革を思い、今後ますますの発展を祈念しつつ帰途についた。

讚会 ― この日 この時間(とき)



山口静子 作詩
小山章三 作曲

一、太陽が笑い
風が青春(はる)を謳った
そよいで はずんで
春を呼んで
あなたの青春 私の青春
みんなの青春(はる)
同じ窓辺で語り合い
未来を夢みて 励まし合った
再び 還らぬ あの日 あの時間(とき)

二、今日また友と



ここに集い語れば
懐かしい思い出に
心ときめく
どんな願いも かなう気がした
みんなの青春(はる)
鳥帽子が岳や 千曲の流れ
夕日の朱(あか)に頬を染めて
再び 青春 この日 この時間(とき)

今日の飲びを 忘れずにいよう
この ひとときを 共に讃えて

編集後記

☆谷口静子さん(高2回卒)の詩『讚会』に曲がつきました。詩『讚会』はこの日の時間(とき)は、呼応12号に掲載された『讚会』の詩を「同窓会讚歌」として作り直したものです。――どんな声が聞こえてくるのでしょうか――

☆役員さんが少しずつ若がえり、新しい会の運営を模索しています。会員各位の積極的な協力を念じてやみません。

